

少子化における児童生徒の教育環境の充実に向けた取組  
今後の検討の進め方について

令和4年3月

飯田市教育委員会



はじめに

全国的に少子化が進行する中、飯田市でも小中学校の児童生徒数は減少を続けています。また、学校施設の老朽化も進行しています。

そのような中で、地域に根ざした飯田らしい教育環境が展開され、将来にわたり子どもたちが主体的に学び合う場とするためには、どのような学校が良いか、子どもたちの未来のため、今から考えていくべき課題です。

そこで、飯田市では地域や保護者の皆さんと一緒に「これからの時代の教育に対応したよりよい教育環境」を考えるため、令和3年度から市内全ての学校運営協議会での協議をスタートしました。

令和3年度の学校運営協議会では、飯田市の小中学校を取り巻く現状を理解していただくため、児童生徒数の推移や学校施設の状況を数字をもとに説明させていただき、委員の皆さんからは「特色・魅力ある学校づくり」「学校の配置・枠組み」「地域の活性化」「今後の進め方」などについて貴重な意見をいただきました。

今回の資料は、令和3年度の学校運営協議会で頂いた資料を参考に、令和4年度以降の検討の進め方について提案するものです。

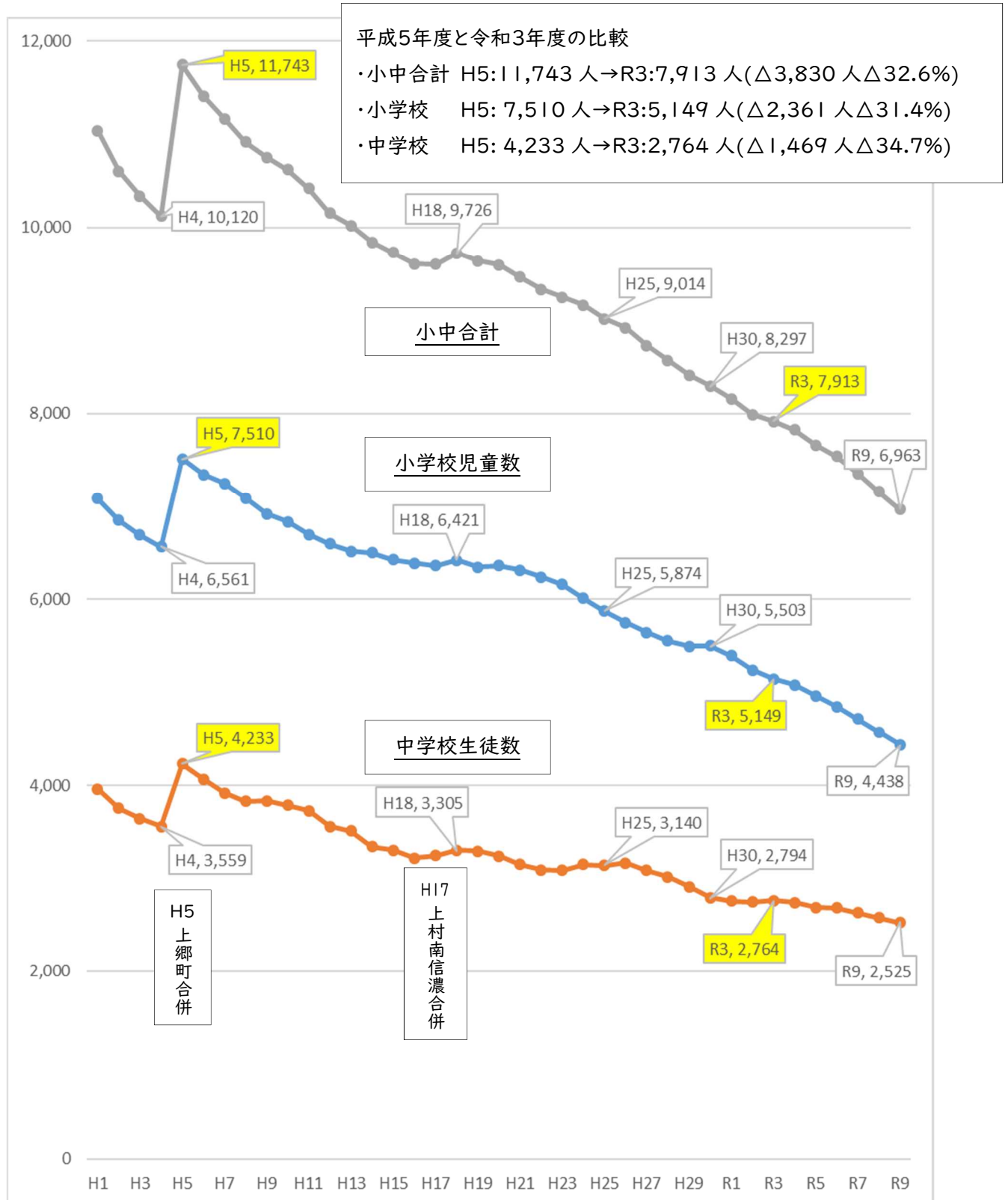
令和4年3月  
飯田市教育委員会

# 飯田市の小中学校を取り巻く現状

## I 児童生徒数の推移

平成元年以降の飯田市小中学校の児童生徒数は、上郷町と合併した平成5年をピークに年々減少し、令和3年度には児童生徒の合計で 7,913 人となり、ピーク時より3割以上減少しています。また、令和9年度までの今後6年間のうちにさらに950人減少する見込みです。

(各年度5月1日現在 単位:人)



## 2 令和3年度と令和9年度の学校別児童生徒数の比較

令和3年度と令和9年度の見込みの児童生徒数を各学校別に比較してみると、鼎小学校など一部の学校では増加しますが、ほとんどの学校で減少します。減少率は市内の全28校の平均で12%になります。

なお、令和9年度の見込み数は、令和2年度末のそれぞれの年代の住民基本台帳登録人数から推計しています。また、令和4年度以降、上村小へ新規の特認児童は入学しないと仮定しています。

校区名	学校名	児童生徒数		増減数	増減率
		令和3年度	令和9年度見込		
飯田東中学校区	飯田東中学校	196	160	△ 36	△ 18.4
	追手町小学校	143	121	△ 22	△ 15.4
	浜井場小学校	132	93	△ 39	△ 29.5
	計	471	374	△ 97	△ 20.6
飯田西中学校区	飯田西中学校	226	182	△ 44	△ 19.5
	丸山小学校	459	429	△ 30	△ 6.5
	計	685	611	△ 74	△ 10.8
緑ヶ丘中学校区	緑ヶ丘中学校	632	620	△ 12	△ 1.9
	松尾小学校	736	700	△ 36	△ 4.9
	下久堅小学校	139	92	△ 47	△ 33.8
	竜丘小学校	379	298	△ 81	△ 21.4
	計	1,886	1,710	△ 176	△ 9.3
竜東中学校区	竜東中学校	64	65	1	1.6
	上久堅小学校	42	33	△ 9	△ 21.4
	千代小学校	33	30	△ 3	△ 9.1
	千栄小学校	39	16	△ 23	△ 59.0
	計	178	144	△ 34	△ 19.1
竜峡中学校区	竜峡中学校	146	142	△ 4	△ 2.7
	龍江小学校	116	79	△ 37	△ 31.9
	川路小学校	98	101	3	3.1
	三穂小学校	82	48	△ 34	△ 41.5
	計	442	370	△ 72	△ 16.3
旭ヶ丘中学校区	旭ヶ丘中学校	599	515	△ 84	△ 14.0
	山本小学校	227	177	△ 50	△ 22.0
	伊賀良小学校	821	722	△ 99	△ 12.1
	計	1,647	1,414	△ 233	△ 14.1
鼎中学校区	鼎中学校	360	344	△ 16	△ 4.4
	鼎小学校	663	696	33	5.0
	計	1,023	1,040	17	1.7
高陵中学校区	高陵中学校	508	480	△ 28	△ 5.5
	座光寺小学校	223	186	△ 37	△ 16.6
	上郷小学校	773	599	△ 174	△ 22.5
	計	1,504	1,265	△ 239	△ 15.9
遠山中学校区	遠山中学校	33	17	△ 16	△ 48.5
	上村小学校 (うち特認児童数)	18 (7)	8 (0)	△ 10	△ 55.6
	和田小学校	26	10	△ 16	△ 61.5
	計	77	35	△ 42	△ 54.5
合計		7,913	6,963	△ 950	△ 12.0

### 3 学級数・学校規模

次の表は小学校19校と中学校9校を学級数により分類したものです。児童生徒数の減少により学級数も減少しています。これに伴い学校の規模も縮小し、令和9年度には過小規模校(複式学級のある学校)が小学校で5校になる見込みです。

#### 【小学校】

区分	平成23年度			令和3年度			令和9年度推計		
過小規模校 (5学級以下 複式学級あり)	2校 上村小 3学級 17人 千栄小 5学級 28人	2校 上村小 3学級 18人 和田小 4学級 26人	5校 上村小 3学級 8人 和田小 3学級 10人 千栄小 4学級 16人 千代小 5学級 30人 上久堅小 5学級 33人						
小規模校 (6~11学級)	9校 上久堅小 6学級 41人 和田小 6学級 56人 千代小 6学級 65人 三穂小 6学級 74人 川路小 6学級 101人 下久堅小 6学級 178人 浜井場小 6学級 191人 追手町小 7学級 173人 龍江小 8学級 157人	11校 千代小 6学級 33人 千栄小 6学級 39人 上久堅小 6学級 42人 三穂小 6学級 82人 川路小 6学級 98人 龍江小 6学級 116人 浜井場小 6学級 132人 下久堅小 6学級 139人 追手町小 6学級 143人 山本小 9学級 227人 座光寺小 10学級 223人	8校 三穂小 6学級 48人 龍江小 6学級 79人 下久堅小 6学級 92人 浜井場小 6学級 93人 川路小 6学級 101人 追手町小 6学級 121人 山本小 7学級 177人 座光寺小 7学級 186人						
標準規模校 (12~18学級)	3校 座光寺小 12学級 256人 山本小 12学級 325人 竜丘小 15学級 438人	2校 竜丘小 13学級 379人 丸山小 17学級 459人	2校 竜丘小 12学級 298人 丸山小 15学級 429人						
大規模校 (19~30学級)	5校 丸山小 22学級 658人 鼎小 24学級 767人 上郷小 24学級 804人 松尾小 25学級 821人 伊賀良小 30学級 1010人	4校 鼎小 21学級 663人 松尾小 23学級 736人 上郷小 24学級 773人 伊賀良小 26学級 821人	4校 上郷小 19学級 599人 鼎小 23学級 696人 松尾小 24学級 700人 伊賀良小 25学級 722人						
学校数	19	19	19						
学級数	229	204	188						
児童数	6,160	5,149	4,438						

#### 【中学校】

区分	平成23年度			令和3年度			令和9年度推計		
小規模校 (3~11学級)	6校 遠山中 3学級 37人 竜東中 3学級 81人 竜峡中 6学級 165人 飯田西中 7学級 262人 飯田東中 8学級 242人 鼎中 11学級 389人	5校 遠山中 3学級 33人 竜東中 3学級 64人 竜峡中 6学級 146人 飯田東中 6学級 196人 飯田西中 7学級 226人	6校 遠山中 3学級 17人 竜東中 3学級 65人 竜峡中 6学級 142人 飯田東中 6学級 160人 飯田西中 6学級 182人 鼎中 11学級 344人						
標準規模校 (12~18学級)	2校 高陵中 16学級 586人 旭ヶ丘中 17学級 590人	3校 鼎中 12学級 360人 高陵中 15学級 508人 旭ヶ丘中 17学級 599人	2校 高陵中 15学級 480人 旭ヶ丘中 16学級 515人						
大規模校 (19~30学級)	1校 緑ヶ丘中 21学級 737人	1校 緑ヶ丘中 19学級 632人	1校 緑ヶ丘中 19学級 620人						
学校数	9	9	9						
学級数	92	88	85						
生徒数	3,089	2,764	2,525						

#### 4 学校における児童生徒数減少の影響

学校教育を行う上で児童生徒が減少することは、学びや学校運営の面などで様々な特徴(よい面と心配される面)があります。次の表はその特徴について文部科学省中央教育審議会(H20.12.2初等中等教育分科会の小・中学校の設置・運営の在り方等に関する作業部会)での資料を参考に事務局でまとめたものです。

	よい面	心配される面
児童・生徒の学び	<ul style="list-style-type: none"> <li>○児童生徒一人ひとりに寄り添った学びを実現しやすく、それぞれの個性を伸ばす教育が行える。</li> <li>○お互いのことを深く知ることができるので、その関係性を生かした深い学びが成立する。</li> <li>○単級学級はクラス替えがないので、ずっと安心した人間関係の中で学び続けることができる</li> <li>○学校中の児童生徒がお互いのことを良く知っているため、異学年の縦の学びが進みやすい。</li> <li>○学校行事や部活動などで、一人ひとりの個別の活動機会を設定しやすい。</li> <li>○全校で1つのことを作っていくとき、全員が協力してまとまりやすい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○他の児童生徒の考えに触れる機会が少なくなり、考えの深まりや広まりに限界がある。</li> <li>○多くの児童生徒と競い合う経験が生まれにくく、たくましが育ちにくい。</li> <li>○クラス替えが困難なことなどから、人間関係や相互の評価等が固定化しやすい。</li> <li>○単級学級はクラス替えがないので、ひとたび人間関係が崩れると、その修復が困難になる。</li> <li>○中学校や高校に進学したとき、人間関係を築くことに苦勞することがある。</li> <li>○運動会や音楽会などの種目数や楽曲の選択肢が少なくなる。</li> <li>○部活動やクラブ活動などの選択肢が少なくなる。</li> </ul>
学校運営	<ul style="list-style-type: none"> <li>○教職員が全校の児童生徒を把握しており、全教員が全校の生徒に関わりながら教育活動を行える。</li> <li>○授業や行事の際に小回りが利きやすく、様々な活動を取り入れやすい。</li> <li>○全教職員間の意思疎通が図りやすく、相互の連携が密になりやすい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○教職員数が少ないため、経験・教科・特性などでバランスのとれた配置を行いにくい。</li> <li>○学年を一人で経営することになり、相談したり研究を深めたりすることができにくい。</li> <li>○校務分掌など一人あたりの負担が大きくなり、授業や子どもの事以外で多忙となる。</li> </ul>
保護者・地域	<ul style="list-style-type: none"> <li>○保護者や地域との連携が図りやすい。</li> <li>○子どもたちの顔と名前が一致していて、あいさつを交わしたり気軽に声をかけたりできる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○保護者は常にPTAや地区の役員をやることになり、多忙感がある。</li> </ul>

## 5 学級数と教職員の配置人数

現行制度では法令により学級数に応じて配置される教職員数が決まっており、学級数が減少すれば配置される教職員数も減少します。ここでは普通学級数に応じた教員配当基準を紹介します。

[小学校教員配当基準]

学級数	校長	教頭	担任	専科	合計	
1	1	1	1		3	
2	1	1	2		4	
3	1	1	3		5	3学級 上村小
4	1	1	4		6	4学級 和田小
5	1	1	5		7	
6	1	1	6	1	9	6学級 千代小 千栄小 上久堅小 三穂小 川路小 龍江小 浜井場小 下久堅小 追手町小
7	1	1	7	1	10	
8	1	1	8	1	11	
9	1	1	9	1	12	9学級 山本小
10	1	1	10	1	13	
11	1	1	11	1	14	10学級 座光寺小
12	1	1	12	1	15	
13	1	1	13	1	16	13学級 竜丘小
14	1	1	14	2	18	
15	1	1	15	2	19	
16	1	1	16	2	20	
17	1	1	17	2	21	17学級 丸山小
18	1	1	18	2	22	
19	1	1	19	2	23	19学級 鼎小
20	1	1	20	2	24	
21	1	1	21	2	25	
22	1	1	22	2	26	
23	1	1	23	2	27	23学級 松尾小
24	1	1	24	2	28	24学級 上郷小
25	1	1	25	2	29	
26	1	1	26	3	31	26学級 伊賀良小

[中学校教員配当基準]

学級数	校長	教頭	担任	専科	生指	合計	
1	1	1	1			3	
2	1	1	2	2		6	
3	1	1	3	4		9	3学級 遠山中 竜東中
4	1	1	4	3		9	
5	1	1	5	3		10	6学級 竜峡中 東中
6	1	1	6	3		11	
7	1	1	7	4		13	7学級 西中
8	1	1	8	5		15	
9	1	1	9	5		16	
10	1	1	10	6		18	
11	1	1	11	6		19	
12	1	1	12	6		20	12学級 鼎中
13	1	1	13	6		21	
14	1	1	14	7		23	
15	1	1	15	7		24	15学級 高陵中
16	1	1	16	7	1	26	
17	1	1	17	8	1	28	17学級 旭ヶ丘中
18	1	1	18	9	1	30	
19	1	1	19	10	1	32	19学級 緑ヶ丘中

◇小規模校の課題例  
 ○全学年単級の中学校の場合  
 学級数3  
 ⇒【配置される教員】  
 校長、教頭、担任3人、専科4人  
 <課題>担任と専科で7人のため、全ての教科(9教科)の専任の教員をそろえられない。

○学年単級で一部複式学校がある小学校  
 学級数5(うち複式1学級)の場合  
 ⇒【配置される教員】校長、教頭、担任5人  
 <課題>専科教員が配置されないため、音楽等の教科で専門性が高い指導を受けられず、担任がそれぞれ指導することから学校で統一した指導を実施しにくい。



## 6 中学校の部活動の状況

市内9中学校の部活動数を平均すると1校あたり9.4部ということになりますが、多い学校は15部、少ない学校は4部となっており、小規模校では部活動の選択肢が少なくなっています。このような状況から飯田市では全市型スポーツスクールについても取り組み始めました。

中学校部活動の入部人数と部活動数 令和3年12月6日現在 男女合算

	部活名	飯田東中	飯田西中	緑ヶ丘中	竜東中	竜峡中	旭ヶ丘中	鼎中	高陵中	遠山中	計
運動部	卓球部		32	65			82	50	41	11	281
	バスケットボール部	40	12	50		16	57	34	39		248
	ソフトテニス部	34		58	13	22	56		33		216
	バレー部	13	29	36	17	12	31	32	33		203
	野球部	13	19	23		25	23	35	25		163
	サッカー部		20	28			30	17	25		120
	陸上部			43			12		30		85
	剣道部			10		19	17	16		7	69
	水泳部			10					22		32
	ソフトボール部						12		16		28
	柔道部						9	6			15
	総合運動部									3	3
	計(人)		100	112	323	30	94	329	190	264	21
運動部数(部)		4	5	9	2	5	10	7	9	3	54
文化部	吹奏楽部	17	23	46	17	16	40	34	48	8	249
	美術部	20	24	51		24	43	45	34		241
	コンピュータ部		24				36		44		104
	技術部			65							65
	人形劇部	3	6		4		14	10	22		59
	家庭科部	7		36							43
	合唱部			11			22				33
	理科・科学部	12									12
	計(人)	59	77	209	21	40	155	89	148	8	806
運動・文化部計(人)	159	189	532	51	134	484	279	412	29	2,269	
全生徒数(人)	196	226	632	64	146	599	360	508	33	2,764	
文化部数(部)	5	4	5	2	2	5	3	4	1	31	
運動・文化部数計(部)	9	9	14	4	7	15	10	13	4	85	

1校当たりの平均部活数：9.4部

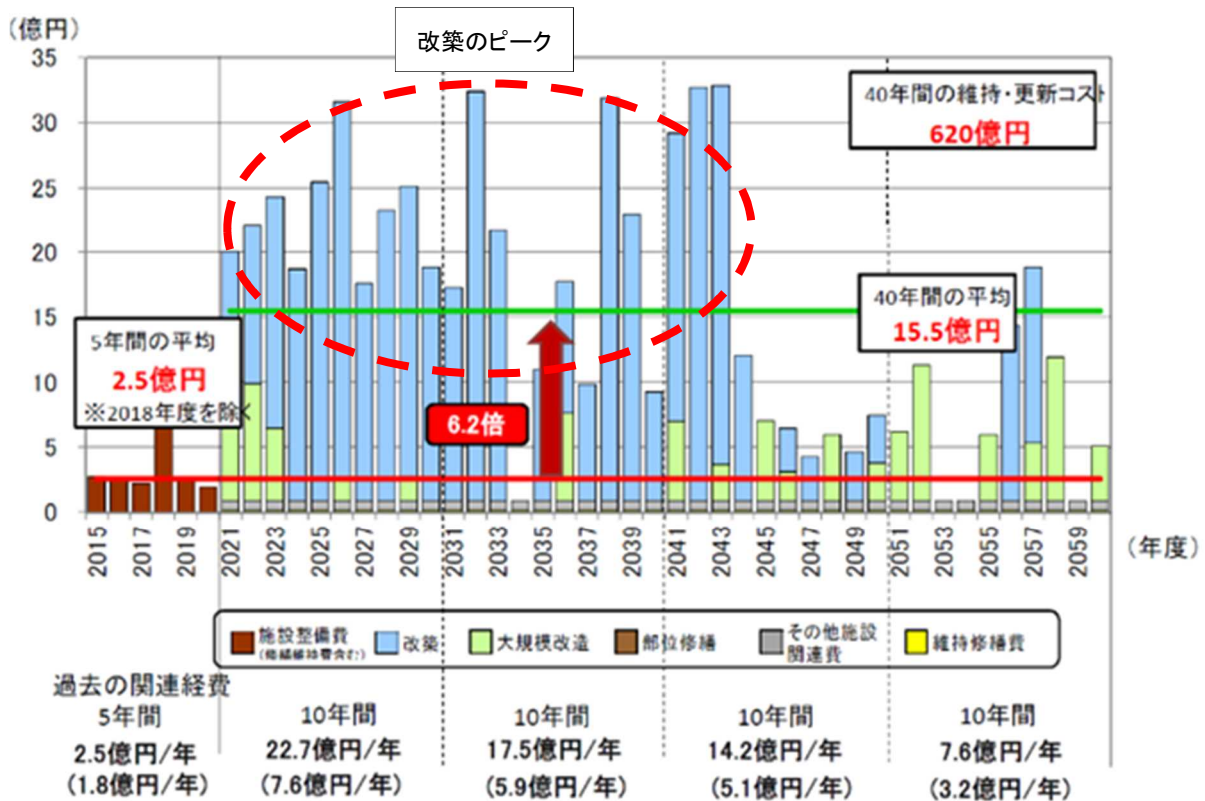


## 8 学校施設の維持・更新コスト

### (1) 従来型のサイクルによる維持・更新コストの推計

文部科学省提供ソフトを用いて試算した従来型の整備方法(築 20 年で大規模改造、築 60 年で改築)による今後の維持・更新コストは、今後 40 年間の事業費総額で約 620 億円です。年間平均は約 15.5 億円になり、過去の年間平均 2.5 億円の 6.2 倍になります。

改築のピークが今後 25 年間に到来する見込みですが、年平均約 15.5 億円の支出は困難であることから、整備方法のあり方を検討する必要があります。



#### ◇コスト試算の条件

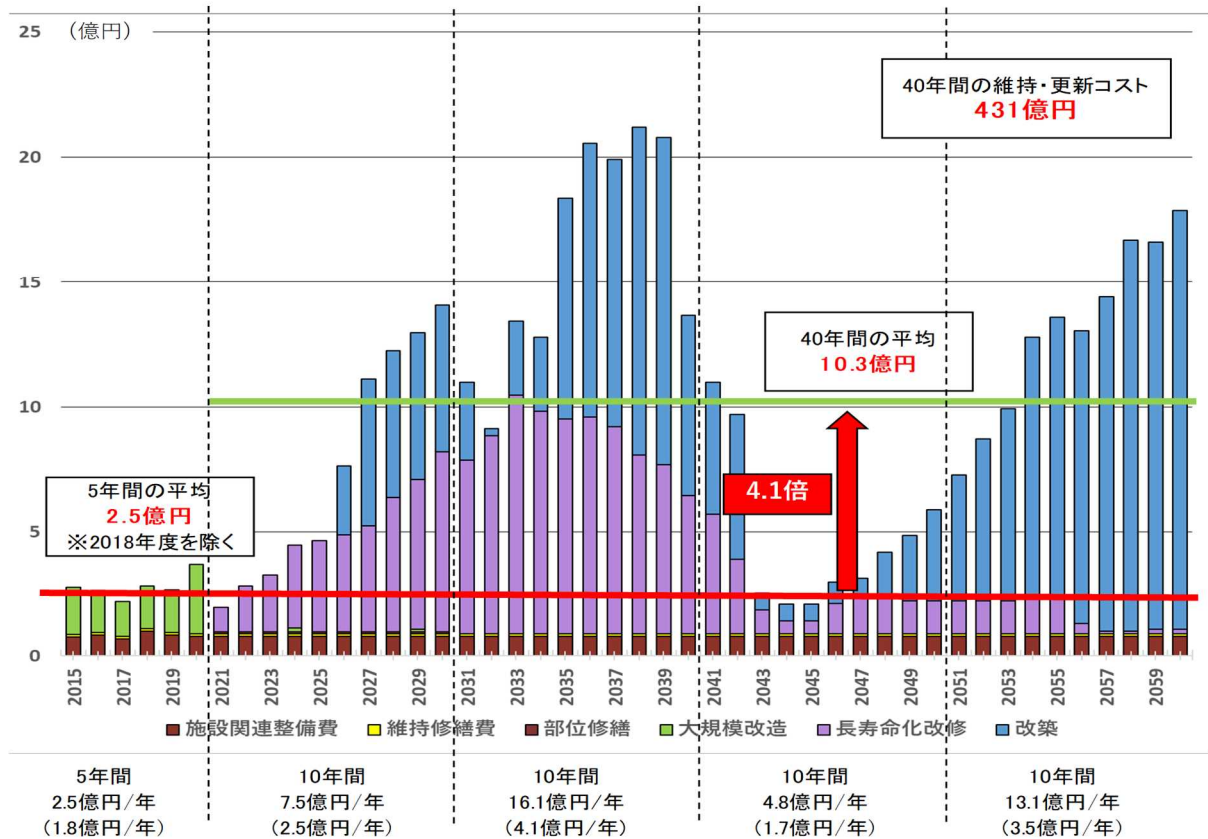
基準年度	2020年(令和2年)
試算期間	基準年の翌年度から40年間
改築	<ul style="list-style-type: none"> <li>○更新周期 60年</li> <li>○改築単価 30.0万円/m<sup>2</sup></li> <li>○改築後面積 現在の面積の8割と仮定(児童数の減少を考慮)</li> <li>○工事期間 2か年</li> <li>○実施年数より古い建物改修を2年以内実施</li> </ul>
大規模改造	<ul style="list-style-type: none"> <li>○実施年数 20年周期</li> <li>○工事期間 1年</li> </ul>

## (2) 長寿命化改修による維持・更新コストの推計

長寿命化改修の効率が高いとされる築 50 年以下の学校において、築 60 年までの間にコンクリートの中性を防止する改修を実施することで 30 年の延命を図ります。

この改修により今後 40 年間の事業費総額が 431 億円、年間平均 10.3 億円となり、従来型サイクルの維持・更新に比べて事業費総額を約 189 億円削減できます。

しかし直近 5 年間の平均 2.5 億円に比べると、4.1 倍もの額になります。



### ◇コスト試算の条件

築 50 年以下の学校	<ul style="list-style-type: none"> <li>・長寿命化改修を築 50~59 年の間に実施し、築 80~89 年で改築する。</li> <li>・長寿命化改修工事は現状面積で試算。</li> <li>・改築面積は現在の面積の 8割と仮定(児童数の減少を考慮)</li> </ul>
築 51 年以上の学校	<ul style="list-style-type: none"> <li>・過去の実績から 70~75 年での改築を目標として維持する。</li> <li>・改築面積は現在の面積の 8割と仮定(児童数の減少を考慮)</li> </ul>



【目指す姿】社会環境が大きく変化しても地域に根ざした飯田らしい教育環境が展開され、将来にわたり子どもたち一人ひとりの学びの場が保障される。

【令和3年度】

【令和4年度】

**【特色・魅力ある学校づくり】**  
**飯田が大切にしてきた飯田らしい教育活動**  
 ○小中連携・一貫教育  
 ○飯田コミュニティスクール  
 →「小中連携・一貫教育」を縦系に、「飯田コミュニティスクール」を横系に捉えた学校と地域による協働活動  
 ○地育力の活用  
 ○ふるさと学習・飯田型キャリア教育  
 ○ICTを活用した教育

**【学校の配置・枠組み】**  
**学校で進行している課題**  
 ○児童生徒の減少  
 ・H5:11,743人 → R3:7,913人(28年間で3,830人、約32%減少)  
 ○小規模校や単級学級の増加  
 ・28校中小規模校(11学級以下)が18校。うち13校は単級学級のみ  
 ○学校施設の老朽化  
 ・築51年以上:9校  
 ・築40年以上:11校

学校運営協議会で、現状の社会環境などをふまえて、目指す姿に対し、結論を求めるのではなく、率直に意見を出し合った。以下意見の一部。

**【特色・魅力ある学校づくり】**  
 ・地域の子どもは地域で育てる。  
 ・地域と学校が一体で子どもを育てる。  
 ・地域に愛着を持ち、将来の地域を担う人になってほしい。  
 ・地域の特色を活かした学校にしていく。  
 ・小中連携で地域に根ざした学校づくりをしていく。  
 ・コミュニティスクールの取組を通して、自然や伝統や文化などの故郷の良いところを大事にして、いつか帰って来たいという気持ちになってもらいたい。  
 ・学校運営協議会は人数が減っていく中で教育の中身を充実させることに力を入れるべき。  
 ・自己有用感(自己肯定感)の高い子どもになってほしい。  
 ・不透明な時代を生き抜く力をもってほしい。  
 ・多様性を受け入れながら主体的に生きられるようになってほしい。

**【学校の配置・枠組み】**  
 ・地区に学校があるのは大事なこと。地域の中心的な役割がある。残していきたい。  
 ・施設一体の小中一貫校または義務教育学校を検討したらどうか。  
 ・実態を踏まえて通学区を見直す。  
 ・希望の学校へ行けるような通学区にする。  
 ・ICTを活用して他の学校と連携して授業を行う。  
 ・空き教室を利用して地域の人とふれあうスペースを設ける。

**【今後の進め方】**  
 ・学校運営協議会だけでなく地域住民も含めて検討していくべき  
 ・未就学児を含めた子育て世代の意見を取り入れたほうが良い。  
 ・当事者である中学生も考えてほしい。  
 ・これからの学校のあり方について専門の見地からの話を聞く機会がほしい。  
 ・こういう課題があることを地域へも発信していく。  
 ・教育委員会としての方針案を出すべき。

**方向性**  
 ○特色・魅力ある学校づくりを重点に必要に応じて学校の配置・枠組みについて、学校運営協議会が中心となり地域的な話し合いを行っていく。  
 ○話し合いにおいては、当事者である保護者や児童生徒の意見を大切に考える。  
 ○小中一貫教育や新しい教室づくり、家庭や地域とともに行う学びの環境づくり等についての理解を深める。

**<今後の進め方の例>**  
 ・今後の学校教育のあり方(令和の日本型学校教育など)の勉強会を開催する。 ・保護者や児童生徒へのアンケートを実施する。  
 ・学校運営協議会を中心とした別の組織を作る。 ・新たな学校のかたち(小中一貫教育など)の勉強会を開催する。  
 ・保護者や地域の人なども参加できる場を作る。 ・議論の内容を広報する。

**【特色・魅力ある学校づくりのために考えてみたいこと】**  
**『どのような姿に向かって』**  
 ・地域の子どもたちが長期的に見て「どのような人」に育ってほしいか。  
 ○子どもたちの実態を表す客観的なデータからどのような姿に向かっていくべきかを探っていく。  
**『そのために、だれが、何を』**  
 ・家庭(親)ができることは? ・地域(住民)ができることは? ・学校(教師)ができることは? ・親、住民、教師と一緒にできることは?  
**『特色・重点は』**  
 ・学校の特色や重点にしたい教育活動は何か。  
**『活用したい仕組み』**  
 ・[縦系]小中連携・一貫教育(9年間の連続的・継続的な学びの仕組み) ・[横系]飯田コミュニティスクール(家庭・地域・学校が協働して学校運営する仕組み)

**<子どもたちの実態を表す客観的なデータの例>**  
**①全国学力・学習状況調査** 令和3年5月27日小学校6年生、中学校3年生を対象に実施。  
 I. 教科に関する調査(国語、算数・数学)  
 II. 質問紙調査 自己理解(自己肯定・自己有用)や意思決定などの「自己に関すること」などについて質問形式で調査。  
 I、IIのいずれも飯田市の調査結果と長野県・全国との結果を比較分析。  
 飯田市全体の調査結果(一部)  
 小学校では自己肯定感の数値が減少し、自己肯定感の自覚に課題が見られる。自己有用感の高まりは継続的に見られ、子どもたちが「人の役に立っている自分」「人の役に立ちたい自分」を強く意識していることが伺われる。  
**②全国体力・運動能力・運動習慣等調査** 令和3年4月から7月末までの間に小学校5年生、中学校2年生を対象に実施。  
 I. ①握力②上体起こし③長座体前屈④反復横跳び⑤-1 持久走⑤-2 シャトルラン(20m)⑥50m 走⑦立ち幅跳び⑧ハンドボール投げ  
 II. 質問紙調査 運動習慣、生活習慣などに関し質問形式で調査。  
 I、IIのいずれも飯田市の調査結果と長野県・全国との結果を比較分析。  
 飯田市全体の調査結果(一部)  
 ・小学校5年生の体力合計点は、男子は全国平均を上回り女子は下回った。  
 ・中学校2年生の体力合計点は、男女とも全国平均を下回った。  
**③不登校児童生徒の状況**  
 飯田市小中不登校児童生徒数計 H30:125人(在籍比1.50%) R1:155人(1.90%) R2:182人(2.28%)  
 ・H30までは在籍比の伸びを抑えている状況だったが、令和元年度以降は増加傾向となっている。  
 →①②③の調査は各学校でのまとめも可能であるので、これらのような客観的なデータや意見交換を通じて実態把握を行ったうえで、どのような人に育ってほしいかを探っていくらどうか。

**【学校の配置・枠組み】**・学校の特色・魅力づくりを優先し、必要に応じて少子化や校舎の老朽化の状況などから、学校の配置・枠組みなどを研究する。  
**<少子化の中でも活力ある教育環境を構築する方策>**(学校の配置・枠組みなどの例)  
**①一定生活圏域の中での小中一貫教育**  
 ・小中学校段階の教員が目指す子ども像を共有し、9年間を通じた教育課程を編成し、系統的な教育を目指す。  
 ・義務教育学校と小中一貫型小学校、中学校の2つの形態。  
**②地域の実情を踏まえた隣接校間の統合**  
 ・隣接する小学校間、もしくは中学校間の統合。  
**③実態を踏まえた通学区の整理**  
 ・同じ小学校の児童は同じ中学校へ通えるよう通学区を整理する。  
**④地域づくりをふまえた学校施設の複合利用**  
 ・学校施設と地域の児童クラブ、図書館、公民館、保育所などを複合的に設置する。  
 ・学びの場である学校を中心に地域コミュニティの拠点を形成する。  
 ・新設する校舎に包含する方式、空き教室を有効活用する方式。  
**⑤ICTの活用による学校間の連携**  
 ・ICTを活用し同じ場所に集合せずに集団での交流学习などを実現する。  
 ・場所を問わず複数の学校と連携する  
**⑥地域ぐるみ、地域主体の教育移住の推進**  
 ・空き家を活用した住宅の提供や、地域の暮らしサポーターなどのサポート体制の用意など、地域の自主自立的な教育移住への取組の推進

# 少子化における児童生徒の教育環境の充実に向けた取組の進め方（ロードマップ）



2022. 3. 15 飯田市教育委員会

